

配慮の視点	生態系の多様性への配慮	配慮項目	生き物の生息・生育空間となる多様な自然とそのつながりの保全・創出
	種の多様性への配慮		野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	エコトーンの重視		
	多様な水辺環境の保全・創出		
配慮事例	水域と陸域の接点の多様性の確保		

内容

●水域と陸域の接点の多様性の確保

【解説】

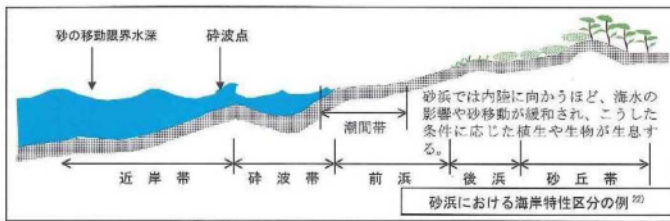
水域と陸域が接する海辺は、潮上帯、潮間帯、潮下帯で環境条件が大きく異なり、環境に応じて多様な海藻類や魚介類が生息・生育しています。また、緩傾斜の海岸には、塩分濃度や水温が異なるタイドプールが多く見られ、そこには厳しい環境条件に適応した魚介類や海藻類が生息・生育しています。このため、事業による海辺の改変にあたり、これらの多様性の確保に留意することで、生物多様性の向上につながります。

【具体的な工法・配慮事項】

岩礁	サンゴ礁	藻場
		
<ul style="list-style-type: none"> 鳥類、甲殻類、魚類、貝類など、多様な生物の生息場。 魚類の産卵場、稚仔の生育場。 	<ul style="list-style-type: none"> 魚類、ジュゴン等の哺乳類など、多様な生物の生息場。 天然の消波機能、魚類等に安息の場の提供。 光合成による酸素の供給。 	<ul style="list-style-type: none"> 大型海藻草類、小動物、幼稚仔魚など、多様な生物の生息場。 窒素・リン等の栄養塩類の吸収。 光合成による酸素の供給。
干潟	砂浜	
		
<ul style="list-style-type: none"> 鳥類、甲殻類、魚類、貝類など、多様な生物の生息場。 魚類の産卵場、稚仔魚の生育場。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物、ウミガメ類、底生生物、海藻など、多様な生物の生息場。 稚仔魚の生育場。 水質浄化機能。 	

- ① 生物は単一の場に生息しているだけでなく、砂浜と干潟と藻場、砂浜と磯場などのように、複数の環境を活用しながら生息しています。
- ② 複数の環境を、つながりをもった一連のものとして捉え、保全・再生していくことが重要です。

出典:1



① 海岸では、汀線近傍のわずかな距離の中で環境が変化し、環境傾度が高いという特徴があります。

出典:1

【事例】

実験用浅場



出典:2・3

【場所】

兵庫県西宮市 西宮御前浜

【環境配慮の内容と方法、工法】

- ・ 西宮市御前浜は、阪神間に残された貴重な自然の砂浜であるが、阪神間の富栄養化と埋め立てによる地形改変などにより、水質が悪化し、生物相の貧弱な海域となっていた。
- ・ 御前浜の水環境をどうすれば良いか、地域の方々とともに検討して「貝が夏場も生息し、水に触れて遊べる海」を目標とし、ヘドロがたまった海底にきれいな砂を入れて浅場を広げ、本当に水がきれいになり生き物たちがすみつくのかを調べることにした。

留意点

参考資料

- 1 「自然共生型海岸づくりの進め方」(社) 全国海岸協会
- 2 「御前浜水環境再生実証事業報告書 ー実証実験施設(浅場)造成編ー」(財) 国際エメックスセンター
- 3 「御前浜水質再生実証実験のまとめ」兵庫県阪神南県民局